

## IRメールマガジンにぜひご登録を!

当社では、最新のIR情報を株主の皆様へ直接メールでお届けしています。  
当社をよりご理解いただくためにも、ぜひともご登録ください。

<http://www.daiichisankyo.co.jp/> または **第一三共**

検索

検索サイトからもお気軽に  
アクセスしていただけます。

1

まずは第一三共の  
ホームページにアクセス

第一三共トップページで  
“IRメールマガジン”  
バナーをクリック

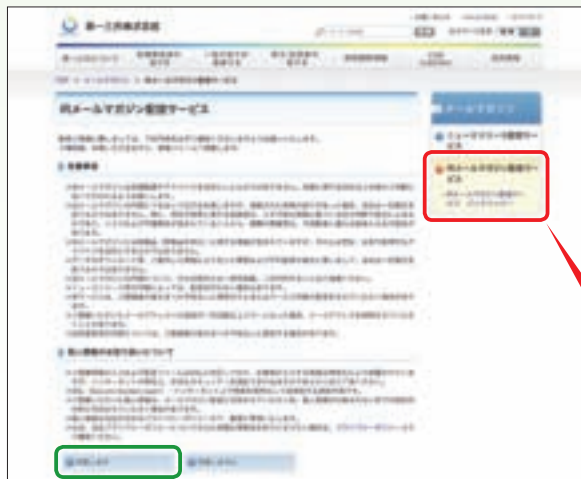


★登録完了後、確認メールを送信させて  
いただきます。

★メールマガジンは登録日以降の発刊号  
からの配信です。

2

メールマガジンのページ  
から登録スタート



3 「免責事項」「個人情報  
のお取り扱いについて」に  
ご同意いただき、画面の  
案内に沿って必要事項を  
ご入力ください。

過去のメールマガジンは  
こちらをクリック

第一三共株式会社

〒103-8426 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号

<http://www.daiichisankyo.co.jp/>

〈お問い合わせ先〉 コーポレートコミュニケーション部 TEL.03-6225-1125 / FAX.03-6225-1132



株主の皆様へ  
2010年3月期 決算号  
2009年4月1日～2010年3月31日

# 株主通信 Vol.7



Daiichi-Sankyo



証券コード：4568

第一三共株式会社

## 社長就任のご挨拶

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2010年6月28日付で、代表取締役社長兼CEOに就任いたしました中山譲治でございます。  
旧事業会社より100有余年の伝統を重ねる第一三共の社長という重責を担うことになり、身の引き締まる思いがしております。

昨今の医薬品産業を取り巻く環境を眺めると、業界内外・国内外ともに大きな変化が続いています。このような状況下では新たな事業形態・ビジネスモデルを積極的に模索し、ドンドンと進化し続けることが企業成長の必須の要件と考えます。第一三共グループは、Global Pharma Innovatorという企業ビジョンを堅持し、世界市場において先進的で優れた企業としてその存在を確固たるものにしたいと考えております。

特に直近の重要課題としては、「日本でのプレゼンス向上」と「ランバクシー社の軌道回復」の2つと認識しております。日本市場では、日本カンパニーという組織を活かした機動的で柔軟な経営によって、市場プレゼンスの向上に努めてまいります。また、ランバクシー社を活用することにより、新興国市場を含めた強力なグローバルリーチによる収益拡大およびサプライチェーンを中心としたコストシナジーを実現し、ビジネスを一層伸長させてまいります。同時に、ランバクシー社の成長にとって特に重要な米国向け製品に係る諸問題の解決のため、グループ全体をあげて真摯に対応してまいります。

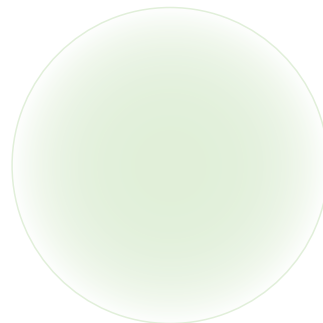
新たな経営体制となりますが、経営方針に変わりはなく、第2期中期経営計画に全力で取り組み、目標を超える業績の実現を目指してまいります。

「革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」という企業理念のもと、未来に向かって、積極的な経営を行うことにより、継続的な企業成長を実現させていく所存です。

今後とも株主の皆様のご支援をお願い申し上げます。

代表取締役社長兼CEO

中山 譲治



### Profile

- |          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| 1979年 4月 | サントリー株式会社入社                      |
| 2000年 3月 | 同社 取締役                           |
| 2002年12月 | 第一サントリーファーマ株式会社<br>取締役社長         |
| 2003年 6月 | 第一製薬株式会社取締役                      |
| 2006年 6月 | 同社 取締役経営企画部長                     |
| 2007年 4月 | 当社 執行役員欧米管理部長                    |
| 2009年 4月 | 当社 常務執行役員海外管理部長                  |
| 2010年 4月 | 当社 副社長執行役員<br>日本カンパニープレジデント      |
| 2010年 6月 | 当社 代表取締役社長兼CEO<br>兼日本カンパニープレジデント |





Daiichi-Sankyo

スローガン

つくっているのは、希望です。

私たちは、人間をこよなく愛する製薬会社です。  
 人間といういのちの輝き、いのちのすこやかさを愛し、そのためになることなら、  
 どんな努力も惜しまない製薬会社です。  
 私たちは、どこよりも先進の集団でありたいと思います。  
 すぐれた研究力と開発力をみがき、つくれなかった薬をつくり、治せなかった病を治す。  
 そのことに限りなく貢献できる会社になろうと思います。  
 私たちは、どこよりも誠実な集団でありたいと思います。  
 医薬品づくりは、いのちにかかわる仕事。そのことを胸深く刻みつつ、誰からも、  
 心から頼られるパートナーでありたいと思うのです。  
 人間の、かけがえのない一日一日をしっかりと守ること。  
 思いがけなく待ち受ける病に、すばやく立ち向かうこと。  
 私たち第一三共がつくっているものは、医薬品であると同時に、すべてのいのちを  
 まばゆく照らす「希望」だと思うのです。

## 1年を振り返って

2009年

4月

製品情報

抗血小板剤「エフィエント」のドイツにおける販売開始

製品情報

インドにてランバクシー社が「オルメサルタン」販売開始



5月

企業情報

ランバクシー社の経営体制変更

6月

企業情報

無担保社債(総額1,000億円)の発行

7月

製品情報

合成抗菌剤「クラビット」高用量剤の販売開始



8月

製品情報

抗血小板剤「エフィエント」の米国における販売開始



9月

10月

企業情報

ワクチン事業企画部の設立

企業情報

ルーマニアにおけるランバクシー社との事業連携開始

企業情報

メキシコにおけるランバクシー社との事業連携開始

11月

12月

企業情報

アフリカ6か国で「オルメサルタン」の販売に向け、事業連携開始

企業情報

米国子会社ライトポルド・ファーマシューティカルズInc.による米国企業ファルマフオースInc.の買収

2010年

1月

CSR情報

ハイチ大地震による災害に対する救済活動支援

製品情報

高血圧症治療剤「レザルタス」の国内製造販売承認取得

研究開発情報

抗インフルエンザウイルス薬「ラニナミビル」の成人および小児に対する治療適応の国内製造販売承認申請

研究開発情報

経口抗Xa剤「エドキサバン」の静脈血栓塞栓症の予防に関するフェーズ3試験開始(HOKUSAI VTE)

3月

CSR情報

米国ワシントンD.C.で開催される2012年桜祭りへの参画

企業情報

第2期中期経営計画(2010~2012年度)の発表

研究開発情報

経口抗Xa剤「エドキサバン」の下肢整形外科手術患者における静脈血栓塞栓症の予防適応の国内製造販売承認申請

2月

研究開発情報

アルツハイマー型認知症治療剤「メマンチン」の国内製造販売承認申請

## CONTENTS

目次

P01~02

株主の皆様へ

▶新社長中山から株主の皆様へのご挨拶はこちらをご覧ください。

P05~10

第2期中期経営計画

▶2010年度から始まる第2期中期経営計画の内容はこちらをご覧ください。

P11

研究開発の状況

▶気になる新薬開発状況についてはこちらをご覧ください。

P12

ランバクシー社の現況

▶ランバクシー社の現況についてはこちらをご覧ください。

P13~16

決算のご報告

▶当期の業績と業績のポイントについてはこちらをご覧ください。

P17~18

企業インフォメーション

▶会社の基本情報を知りたい方はこちらをご覧ください。

# 2015年ビジョン「Global Pharma Innovator」を目指して

第一三共グループでは、「革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」ことを企業理念として、「Global Pharma Innovatorの実現」に向けてさまざまな経営施策を推進しております。



## 第2期中期経営計画 (2010～2012年度)

「Global Pharma Innovatorの実現」に向け、ハイブリッドビジネスを本格展開し、事業基盤の安定化と収益拡大を目指してまいります。

### 第2期中期経営計画要旨

#### 2012年度計数目標

売上高	1兆 1,500億円
営業利益	1,800億円
海外売上高	6,500億円

#### キーメッセージ

- イノベティブ医薬品事業の強化充実
- 多様化する医療ニーズへの対応
- バリューチェーン全般におけるランバクシー社とのシナジー創出

※為替レート：1US\$=90円、1EURO=130円

### ハイブリッドビジネスの推進

第一三共グループを取り巻く環境は、高齢化が進展する先進国において医療費抑制策が進み、市場成長が鈍化しつつある一方、新興国では人口増加と大きな経済成長を背景に、市場の急拡大が見込まれるなど多様化しております。

また、医療ニーズについても、未だ克服されていない疾病が多く存在することに加え、良質で廉価な医薬品の需要増加や予防治療の拡大など多様化はますます進んでおります。

第一三共グループは、このような市場・医療ニーズの多様化へ対応するために、「イノベティブ医薬品」、「エスタブリッシュト医薬品\*」、「ワクチン」、「OTC医薬品」の4つの事業を核とするハイブリッドビジネスを推進してまいります。

※ジェネリック医薬品および当社長期収載品の一部

### 市場・医療ニーズの多様化

#### ハイブリッドビジネスモデル



### 2015年ビジョンに向けて

2015年ビジョン「Global Pharma Innovatorの実現」に向け、第1期中期経営計画の「成長基盤の拡充」に引き続き、第2期ではハイブリッドビジネスを推進いたします。



# 日本、米国、欧州、ASCAで、地域のニーズ・特性に合致した地域事業戦略を実施

## 日本

売上目標 **5,000**億円以上

**戦略のPoint**

4つの事業の拡大

- ▶「イノベティブ医薬品」
- ▶「ワクチン」
- ▶「エスタブリッシュ医薬品」
- ▶「OTC医薬品」

※OTC…「オーバー・ザ・カウンター（Over The Counter）」の略で、薬局・ドラッグストアなどで販売されている一般用医薬品。

イノベティブ医薬品事業については、高血圧症治療剤オルメサルタン・フランチャイズをはじめとする成長品目や新製品の最大化により第一三共グループの中核事業として収益の確保と持続成長を目指します。

ワクチン事業については、医療ニーズの高い予防ワクチン事業の強化・拡大を推進します。

さらにエスタブリッシュ医薬品事業では、第一三共エスファ株式会社を中心に、ハイブリッドビジネスモデルにより多様な市場ニーズに対応いたします。

また、OTC医薬品事業では、「消費者起点」によるセルフメディケーションの推進を図ります。



第一三共本社

## 米国

売上目標 **35**億ドル

**戦略のPoint**

- ▶ オルメサルタン・フランチャイズの最大化
- ▶ ACS-PCI領域でエフィエントの第一選択薬としてのブランド確立

第一三共INC.においては、高血圧症治療剤オルメサルタン・フランチャイズ、抗血小板剤エフィエントについて2009年度までに拡充を完了した事業基盤を最大活用して生産性の向上を目指します。さらに経口抗Xa剤エドキサバンの最大化に向けたプロアクティブな情報生産を実施してまいります。

また、ルイトボルド・ファーマシューティカルズInc.においては、高収益構造を堅持しつつジェネリック注射剤を核に事業の成長を図ります。



第一三共INC.

## ハイブリッド ビジネス

## 欧州

売上目標 **12**億ユーロ

**戦略のPoint**

- ▶ オルメサルタン群のライフサイクルマネジメントの推進
- ▶ エフィエントの最大化

第一三共ヨーロッパGmbHを中心に、高血圧症治療剤オルメサルタン群のライフサイクルマネジメントの推進や抗血小板剤エフィエントの最大化により、厳しい市場環境が予想される中においても平均10%の成長率を確保するとともに、自社販売力強化による営業生産性の向上を図ります。

また、サプライチェーンの効率化によるコスト削減やランバクシー社との協業による売上拡大、ならびに業務プロセス改革によるコスト削減を推進し、強靱な事業体質へと進化してまいります。



第一三共ヨーロッパGmbH

## ASCA

売上目標 **1,500**億円以上

**戦略のPoint**

- ▶ オルメサルタン・フランチャイズの拡大
- ▶ ランバクシー社との協業によるハイブリッドビジネスを本格展開

第一三共ASCAカンパニーにおいては、高血圧症治療剤オルメサルタン・フランチャイズをさらに拡大させるとともに、抗血小板剤プラスグレルの着実な上市と早期拡大を目指します。

さらにランバクシー社の、インド医薬品市場でのナンバー1企業としてのプレゼンスの確立、アフリカ・中南米でのプレゼンスの拡充を図ってまいります。

※ASCA…日米欧を除く国・地域を示す社内用語。



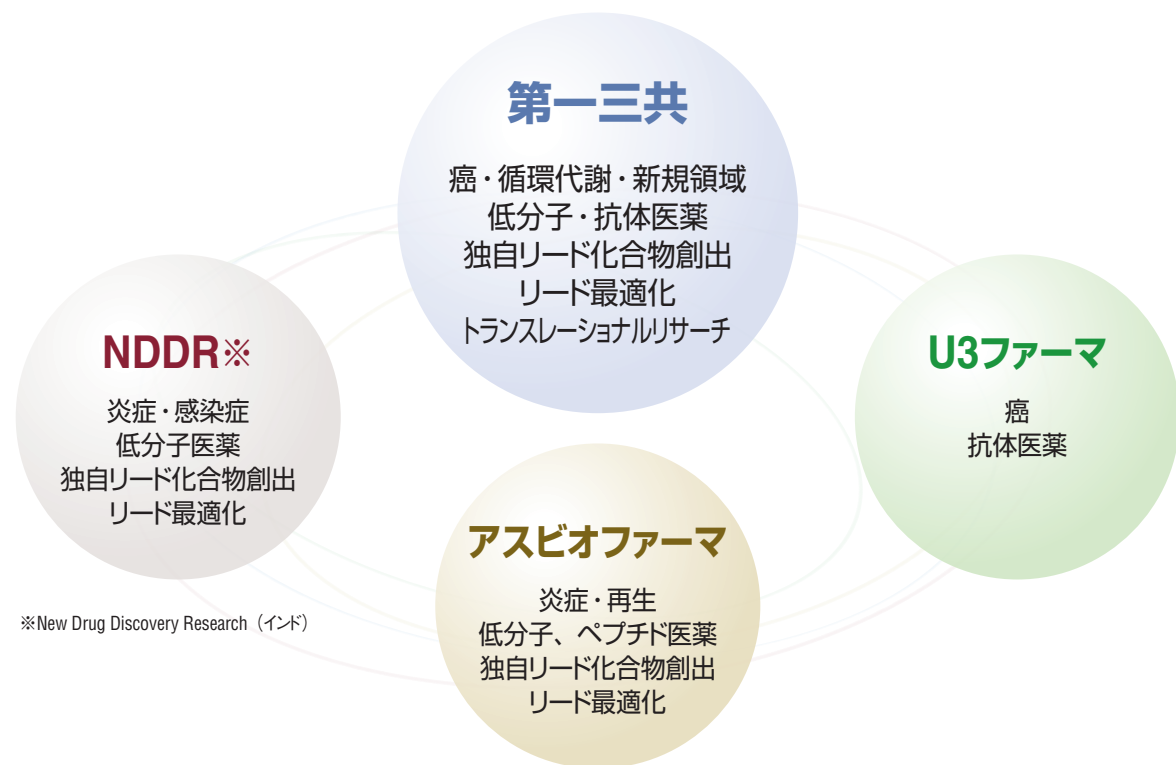
ランバクシー社



# グローバルな研究開発体制により、重点 カテゴリーとなる「癌」・「循環代謝」に注力

## グローバル研究機能

革新的な医薬品の提供を可能にする、グローバルな体制で研究を進めております。



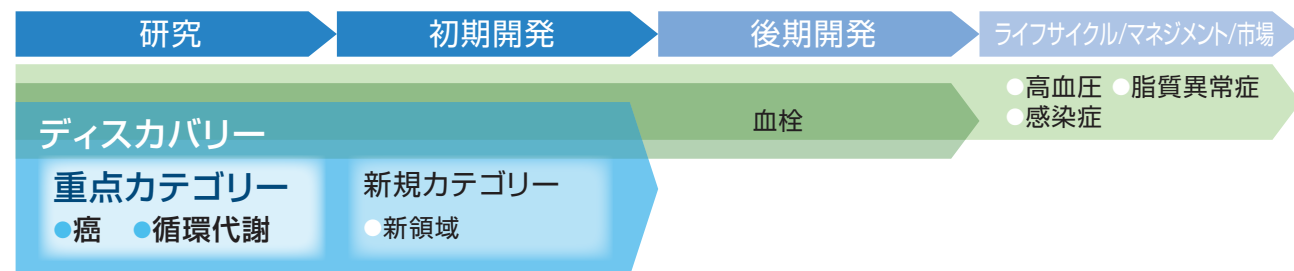
第一三共グループ研究機能は、第一三共の品川・葛西両拠点を中心に、アスピオファーマ(株)、ドイツのU3ファーマ GmbHとの連携に加え、ランバクシー社の創薬研究機能NDDRとも連携したグローバル体制を構築し、創薬研究のスピードアップや新薬候補品の増大に努めております。

## 研究開発ステージからみた重点領域

アンメットメディカル(未充足医療)ニーズの高い重点領域での競争力の向上を目指します。

研究から初期開発に該当するディスカバリーステージにおいては、「癌」と「循環代謝」を重点カテゴリーと位置けるとともに、創薬アプローチにチャレンジする「新規カテゴリー」を重点領域に絞り込むことで、研究開発パイプラインのさらなる充実を図ります。

また、開発領域については、高血圧、感染症、脂質異常症の領域でのライフサイクルマネジメントを推進するとともに、後期開発ステージの血栓症領域に資源の重点投入をまいります。



### 癌領域

## 2015年までにワールドクラスのパイプラインの確保

癌領域では、2015年までの目標として、市場でのプレゼンスの獲得、新製品および新適応症での上市の加速、ワールドクラスの創薬能力と組織体制を実現させるため、ライセンス・M&Aによる外部資源の取り込みや、継続成長を支える研究開発力・技術基盤の確立を進めます。

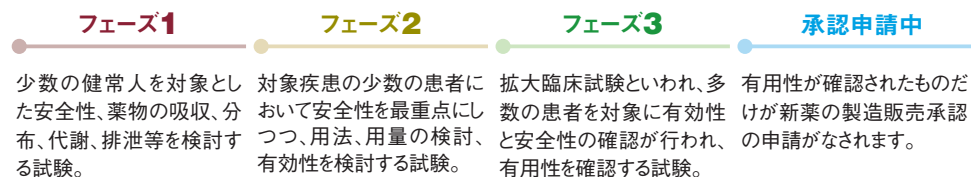
### 循環代謝領域

## 心血管イベントのさらなる抑制への挑戦

循環代謝領域では、2010年まで進めてきた単一リスク因子軽減へのアプローチから、2015年を目標に、病態解析に基づいた複数リスク因子管理および臓器保護に向けた新アプローチを確立します。

## 開発パイプラインの状況および、承認申請中の主要な品目についてご紹介いたします。

### 開発パイプラインの状況



領域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	承認申請中
循環器	●		●	●
糖代謝		●		
癌	●	●		
感染症	●			●
骨・関節			●	●
免疫・アレルギー	●	●		
その他		●	●	●

### 【承認申請中の主要な品目】

領域	開発品目	目標適応	開発地域
循環器	オルメサルタン3剤配合剤(CS-8635)	高血圧症	欧米
感染症	ラニナミビル	インフルエンザ(治療)	日
その他	メマンチン	アルツハイマー型認知症	日

## 第一三共との新たな協業ならびにランバクシー社の現状の課題への取り組みについてご報告いたします。

### 第一三共とランバクシー社によるさまざまな協業について

第一三共グループは先進国市場と新興国市場の両方をカバーし、あらゆる市場の変化に対して持続的な成長を図っていくハイブリッドビジネスを着実に進めています。経営体制の強化をはじめとして、研究開発、生産、販売といった機能ごとにシナジーを追求しております。

- 2009年 4月 インドにてオルメサルタンの販売開始
- 2009年10月 ルーマニアにて第一三共ヨーロッパの骨粗鬆症治療剤エビスタの販売開始
- 2009年10月 メキシコにおける事業連携開始
- 2009年12月 アフリカ6か国でオルメサルタンの販売に向け、事業連携開始
- 2010年 6月 インドにてプラスグレルの販売開始



### ランバクシー社のFDA問題の経緯ならびに取り組みについて





第一三共グループにとってランバクシー社の米国向け製品に関するGMP違反等は極めて重大な問題であると認識しております。

問題解決に向けてFDA(米国食品医薬品庁)の指示に従い、原因究明のための第三者による内部調査を実施するなどグループ全体をあげてFDAとの協議等に全力を尽くしております。

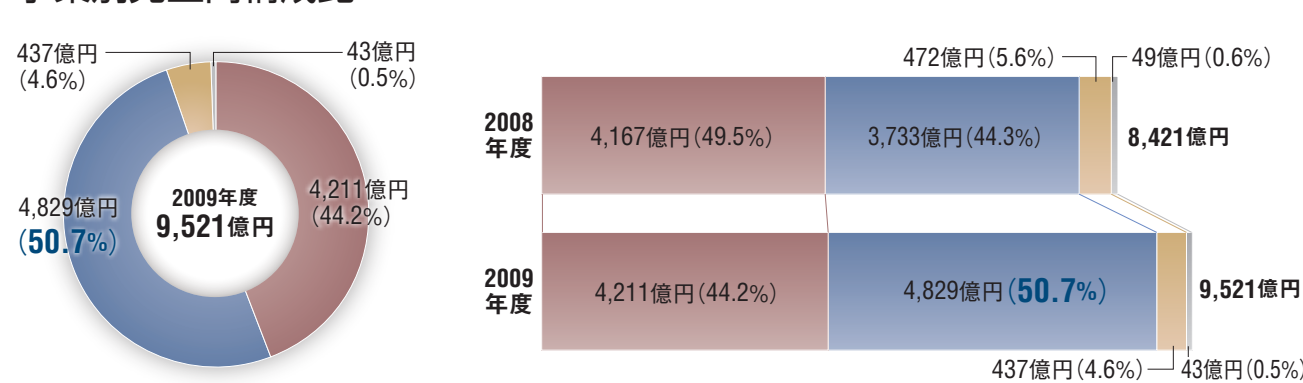
- 2008年9月 インド国内におけるデワスならびにパオンタサヒブの2工場にて生産していた米国向け製品に輸入禁止措置
- 2009年2月 FDAからパオンタサヒブ工場に対して、過去の申請データに対する措置 AIP(Application Integrity Policy)が発動
- 2009年5月 役員人事を刷新し、当社取締役の采を取締役会議長に、また同社の経営状況に精通しているCOOのソプティを社長とする新たな経営体制をスタート
- 2010年1月 米国子会社第一三共INC.よりランバクシー社のグローバルな品質管理責任者を着任

# 業績の概況

前期に比べ円高傾向で推移したものの、ランバクシー社の売上高1,466億円の寄与により**9,521億円(前期比13.1%増)**となりました。

セグメント	主な増減要因	業績
<b>国内医療用医薬品事業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高血圧症治療剤オルメテック、カルブブロック、消炎鎮痛剤ロキソニンブランドなどの売上が寄与し、増収となりました。</li> </ul> 	<p>売上高 <b>4,211</b> 億円 (前期比 1.0% ↑)</p>
<b>海外医療用医薬品事業</b>		<p>売上高 <b>4,829</b> 億円 (前期比 29.4% ↑)</p>
<b>北米</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 円高傾向に伴う為替の影響があったものの、ベニカー/ベニカーHCT、エイゾール、ウェルコール、ヴェノファーなどが現地通貨ベースで引き続き伸長していることに加え、ランバクシー社の売上寄与もあり、増収となりました。</li> </ul> 	<p>売上高 <b>2,225</b> 億円 (前期比 16.6% ↑)</p>
<b>欧州</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オルメテック、セビカーの伸長やランバクシー社の売上寄与などにより、増収となりました。</li> </ul> 	<p>売上高 <b>993</b> 億円 (前期比 28.2% ↑)</p>
<b>インド及びその他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ランバクシー社のインドなどにおける売上が寄与したことに加え、ASCA地域においてオルメサルタンなどが伸長したことにより増収となりました。</li> </ul>	<p>売上高 <b>1,109</b> 億円 (前期比 151.2% ↑)</p>
<b>輸出及びロイヤリティ収入</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 円高の影響や合成抗菌剤レボフロキサシンの輸出が減少しました。</li> </ul>	<p>売上高 <b>503</b> 億円 (前期比 17.5% ↓)</p>
<b>ヘルスケア事業 (OTC)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新製品ルルアタックEXなどの売上寄与はあったものの、改正薬事法施行に伴い、ガスター10などの第1類医薬品の売上が減少しました。</li> </ul> 	<p>売上高 <b>437</b> 億円 (前期比 7.4% ↓)</p>

## 事業別売上高構成比



## 主要会社の状況

### 第一三共

(単位: 億円)

	2009年度	2008年度	前同増減
オルメテック 【高血圧症治療剤】	772	644	129
カルブブロック 【高血圧症治療剤】	137	121	16
メパロチン 【高コレステロール血症治療剤】	462	507	△45
クラビット 【合成抗菌剤】	436	430	6
ロキソニン 【消炎鎮痛解熱剤】	470	387	83
オムニパーク 【造影剤】	273	283	△10

### 第一三共INC. (米国)

(単位: 億円)

	2009年度	2008年度	前同増減
ベニカー/ベニカーHCT 【高血圧症治療剤】	889	874	16
エイゾール 【高血圧症治療剤】	128	87	41
ウェルコール 【高コレステロール血症治療剤/ 2型糖尿病治療剤】	275	245	30
エフィエント (共同販促収入) 【抗血小板剤】	1	—	1

### 第一三共ヘルスケア

(単位: 億円)

	2009年度	2008年度	前同増減
ルル類	99	98	1
ガスター10	21	33	△12
新三共胃腸薬類	35	33	3
パテックス類	24	27	△2
トランシーノ	9	15	△6

### 第一三共ヨーロッパ GmbH (欧州)

(単位: 億円)

	2009年度	2008年度	前同増減
オルメテック/ オルメテックプラス 【高血圧症治療剤】	399	375	24
セビカー 【高血圧症治療剤】	63	22	41
エビスタ 【骨粗鬆症治療剤】	92	120	△28



# 連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位: 億円)

科目/期別	当期 (2010年3月31日現在)	前期 (2009年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	8,198	7,835
固定資産	6,698	7,111
<b>資産合計</b>	<b>14,895</b>	<b>14,946</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,688	5,085
固定負債	3,312	974
<b>負債合計</b>	<b>6,000</b>	<b>6,060</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	8,870	8,945
資本金	500	500
資本剰余金	1,052	1,052
利益剰余金	7,464	7,538
自己株式	△146	△146
評価・換算差額等	△313	△314
新株予約権	33	24
少数株主持分	305	232
<b>純資産合計</b>	<b>8,895</b>	<b>8,886</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>14,895</b>	<b>14,946</b>

連結損益計算書(要旨)

(単位: 億円)

科目/期別	当期 自2009年4月1日 至2010年3月31日	前期 自2008年4月1日 至2009年3月31日
売上高	9,521	8,421
売上原価	2,780	2,144
<b>売上総利益</b>	<b>6,741</b>	<b>6,277</b>
販売費及び一般管理費	5,786	5,389
<b>① 営業利益</b>	<b>955</b>	<b>889</b>
営業外収益	282	123
営業外費用	206	460
<b>② 経常利益</b>	<b>1,031</b>	<b>552</b>
特別利益	59	38
特別損失	116	3,672
税金等調整前当期純利益(△損失)	974	△3,083
<b>③ 当期純利益(△損失)</b>	<b>419</b>	<b>△2,155</b>

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位: 億円)

科目/期別	当期 自2009年4月1日 至2010年3月31日	前期 自2008年4月1日 至2009年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,302	784
投資活動によるキャッシュ・フロー	426	△4,139
財務活動によるキャッシュ・フロー	△891	981
現金及び現金同等物に係る換算差額	△23	△291
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	814	△2,665
現金及び現金同等物の期首残高	1,778	4,443
現金及び現金同等物の期末残高	2,592	1,778

## ✓ 当期のPOINT

### ① 営業利益 955億円 (前期比 7.5%↑)

円高の影響等による原価率の上昇、また、経口抗Xa剤エドキサバンなど開発プロジェクトの進展により研究開発費が増加しましたが、欧米グループ会社の販売促進費の圧縮や売上高の増加などにより増益となりました。

### ② 経常利益 1,031億円 (前期比 86.9%↑)

ランバクシー社の為替デリバティブの評価損益が、前期の評価損から評価益に転じたことなどにより、営業外損益が大幅に改善しました。

### ③ 当期純利益 419億円 (前期は2,155億円の純損失)

前期はランバクシー社の、のれん減損3,513億円の特別損失により、2,155億円の純損失となりましたが、当期は、419億円の純利益となりました。

## 主要経営指標

	2009年度	2008年度
1株当たり当期純利益(△損失)	59.45円	△304.22円
1株当たり純資産額	1,215.62円	1,226.04円
1株当たり配当金(年間配当)	60.00円	80.00円
配当性向	100.9%	—
自己資本比率	57.4%	57.7%
純資産配当率(DOE)	4.9%	5.4%
自己資本当期純利益率(ROE)	4.9%	△20.5%

## 次期の見通し

### 2011年3月期連結業績予想

売上高	9,800億円 (279億円↑) (前期比 2.9%↑)
営業利益	900億円 (55億円↓) (前期比 5.8%↓)
経常利益	850億円 (181億円↓) (前期比17.6%↓)
当期純利益	450億円 (31億円↑) (前期比 7.5%↑)
1株当たり配当金	60円 ( — ) (前期比 — )

売上高につきましては、2010年4月に日本で新発売した高血圧症治療剤レザルタスを含めた世界各極でのオルメサルタンの拡大と欧米での抗血小板剤エフィエントの普及に加え、インドを中心としたランバクシー社の増収寄与により、対前年2.9%増収となる9,800億円を見込んでおります。

利益面では、薬価改定の影響に加え、経口抗Xa剤エドキサバンを中心とする開発プロジェクトの進展に伴う研究開発費の増加や新製品発売に伴う販売促進費の増加もあり、営業利益は、対前年5.8%減益となる900億円と見込んでおります。

当期純利益につきましては、当期に過年度修正があったことなどにより税金費用が減少するため、対前年7.5%増益となる450億円を見込んでおります。

次期の配当につきましては、業績予想を勘案し、1株当たり年60円の配当を予定しております。

会社概要

商号	第一三共株式会社 (DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)
資本金	500億円
事業内容	医療用医薬品の研究開発、製造、販売など
従業員数	約29,800名（第一三共グループ）

役員（2010年6月28日現在）

〈取締役〉			
代表取締役会長	庄田 隆	社外取締役	沖本 隆史
代表取締役社長	中山 譲治	社外取締役	平林 博
取締役	松田 等	社外取締役	石原 邦夫
取締役	采 孟	社外取締役	安西祐一郎
取締役	荻田 健		
取締役	廣川 和憲		
〈監査役〉			
常勤監査役	高柳 輝夫	社外監査役	山田 昭雄
常勤監査役	永田 光	社外監査役	石川 重明

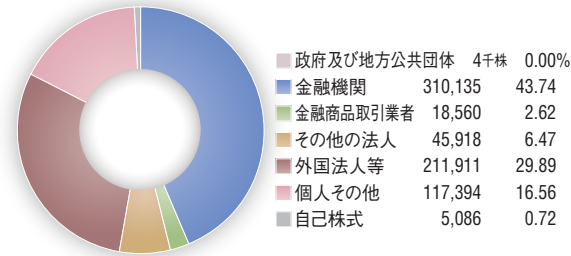
株式の状況（2010年3月31日現在）

発行可能株式総数	2,800,000,000株
発行済株式の総数	709,011,343株 (自己株式5,084,489株を含む)
株主数	108,216名

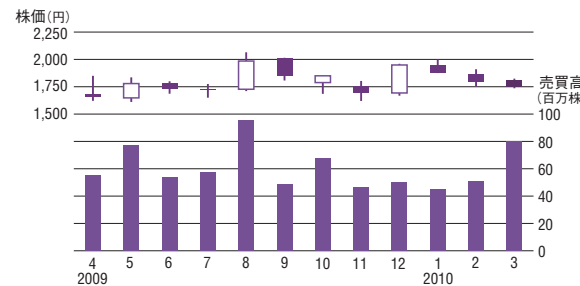
大株主（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	48,624千株	6.86%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	40,662	5.74
日本生命保険相互会社	37,659	5.31
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	17,696	2.50
株式会社三井住友銀行	13,413	1.89
ジェーピー モルガン チェース バンク 385147	12,251	1.73
東京海上日動火災保険株式会社	9,172	1.29
株式会社みずほコーポレート銀行	8,591	1.21
みずほ信託銀行株式会社(退職給付信託みずほコーポレート銀行口)	8,497	1.20
オーディー05オムニバスチャイナトリートイ808150	8,234	1.16
合計	204,804	28.89

所有者別株式分布状況



株価および出来高の推移



株主メモ

<b>事業年度</b> 4月1日～翌年3月31日	<b>同連絡先</b> 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL0120-232-711(通話料無料)
<b>期末配当金受領株主確定日</b> 3月31日	<b>中間配当金受領株主確定日</b> 9月30日
<b>定時株主総会</b> 毎年6月	<b>上場証券取引所</b> 東京証券取引所・大阪証券取引所・名古屋証券取引所 各第1部
<b>単元株式数</b> 100株	<b>公告の方法</b> 電子公告により行う 公告掲載URL http://www.daiichisankyo.co.jp/
<b>株主名簿管理人</b> 三菱UFJ信託銀行株式会社	<b>特別口座管理機関</b> 三菱UFJ信託銀行株式会社

(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします)

お知らせ

**配当金計算書について**  
配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取りになられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

事業所

<b>本社</b>	東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号
主要な国内事業拠点	
<b>支店</b>	札幌、東北(宮城県)、東京、千葉、埼玉、横浜、北関東(東京都)、甲信越(東京都)、東海(愛知県)、京都、北陸(石川県)、大阪、神戸、中国(広島県)、四国(香川県)、九州(福岡県)
	※上記の他、全国主要都市に営業所を設けております。
<b>研究所</b>	品川(東京都)、葛西(東京都)、平塚(神奈川県)、袋井(静岡県)、群馬、大阪
<b>工場</b>	秋田、小名浜(福島県)、平塚(神奈川県)、小田原(神奈川県)、静岡、大阪、高槻(大阪府)

主要な国内グループ会社

会社名	主要な事業内容
第一三共ヘルスケア株式会社	ヘルスケア品の開発・製造・販売
第一三共プロファーマ株式会社	医薬品の製造
第一三共ケミカルファーマ株式会社	医薬品の製造
第一三共ロジスティクス株式会社	物流及び関連業務
アスピオファーマ株式会社	医薬品の研究開発
第一三共RDアソシエ株式会社	グループの研究開発サポート業務
第一三共ビジネスアソシエ株式会社	グループのビジネスサポート業務
第一三共ハピネス株式会社	グループのビジネスサポート業務

海外グループ会社

<b>●北米</b> アメリカ	第一三共INC. ルイトボルド・ファーマシューティカルズInc.	<b>●欧州</b> ドイツ	第一三共ヨーロッパGmbH 第一三共ドイツGmbH※ U3ファーマGmbH
<b>●ASCA</b> 中国	第一三共製薬(北京)有限公司 第一三共製薬(上海)有限公司 香港第一三共有限公司	フランス	第一三共フランスS.A.S.※ 第一三共アルトキルヒSarl※
台湾	台湾第一三共股份有限公司	イタリア	第一三共イタリアS.p.A.※
韓国	韓国第一三共株	スペイン	第一三共スペインS.A.※
タイ	第一三共タイLtd.	イギリス	第一三共UK Ltd.※ 第一三共デベロップメントLtd.
インド	第一三共インドLtd. ランバクシー・ラボラトリーズLtd.グループ *なお、同社グループ会社の記載は省略しています。	スイス	第一三共スイスAG※
ブラジル	第一三共ブラジルLtda.	ポルトガル	第一三共ポルトガルLda.※
ベネズエラ	第一三共ベネズエラS.A.	オーストリア	第一三共オーストリアGmbH※
		ベルギー	第一三共ベルギーN.V.-S.A.※
		オランダ	第一三共オランダB.V.※
		トルコ	第一三共トルコLtd. Şti.※
		アイルランド	第一三共アイルランドLtd.※

※は第一三共ヨーロッパGmbHグループ